

御 ONJUKU 宿

No.539

新春号

2008.平成20年

新しき2008年の新春を迎え
本年が町民の皆様にとって
最良の年となりますよう
心よりお祈り申し上げます

建立80周年を迎える
日西墨三国交通発祥記念之碑(メキシコ記念塔)と
そこから望む日の出

―新年挨拶―

変革の時代に新たな挑戦



井上 七郎 町長 御宿

皆様、新年明けましておめでとございませう。

町民の皆様には、平成20年の輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、平素より町政に對しまして温かいご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、我が国の経済状況は、緩やかな景気回復基調にあるものの、格差社会の広がりや原油価格の高騰など、先行きはいまだ不透明な状況であり、なお留意する必要があります。

また、逼迫した

財政状況に加え、「人口減少」と「団塊世代の大量退職」に起因する年金・社会保障問題、地球温暖化をはじめとする環境問題など、解決が急が

れる難題が山積する現状にあります。

このような社会経済状況を背景に地方分権改革は着実に進められ、現在本格的な実行段階となり、地方自治体の「自己決定・自己責任」の領域は広がるとともに、創意工夫による自治体運営が今まで以上に強く求められております。新しい年はまさに「改革のうねりの中での幕開け」であると感じております。

これまで、町では行政を取り巻く環境が大きく変化する中で、基本計画や行政改革大

綱などに基づき、財源の効果的な運用や組織の効率化を図るとともに、「ゼロ予算事業」を実施するなど、職員が一人となり行政経営の改善に努めてまいりました。

しかし、少子高齢化や価値観の多様化が進む中で、地方分権社会に相応しい、「活力に満ちたまち」を実現するためには、これまでの「行政主導のまちづくり」から「町民と行政の協働によるまちづくり」への転換が強く求められており、さらなる改革が必要です。

現在、さらに行政改革を推進するため「第5次行政改革大綱」を作成中ですが、社会情勢の動向と時代の潮流を的確に見極め、今後とも自己改革への努力を日々重ねてまい

る所存でございます。

しましては、「協働の推進と創出する行政運営」を編成テーマに掲げ、単に予算規模を縮小するのではなく、事業全般にわたり行政の役割や新たな実施主体・手法を慎重に検証しながら必要性も含めてゼロベースでの見直しに徹することとし、「見直すべき点は思い切って見直す」という姿勢で臨みたいと考えております。

最優先課題としては、町の宝である子どもたちの安全確保を第一に考え、執行を決断した、御宿小学校校舎・体育館耐震補強及び改修工事への着工・完了に努めます。また、先送りとなっており、御宿中学校体育館改築工事ですが、今しばらく充電期間をいただき、十分な財務体力と強固な財政基盤を築き上げることに鋭意努力しながら、工事着工時期を慎重に検討し、見極めてまいりたいと考えております。

れた地域包括支援センターの運営も含め、住民生活に直結した社会保障面のさらなる充実を図ってまいります。

現在、町では1609年、メキシコへ航海中に遭難したスペイン船「サン・フランシスコ号」の乗組員を、当時の住民たちが救助した史実から400周年を迎えるにあたり、様々な記念事業に取り組んでいます。

この事業は、先人達の偉業を広く後世に伝えようと、3カ年にわたり、地域ぐるみで実施するものです。昨年を初年度とし、事業の企画・立案の段階から地元企業や商工会をはじめ、様々な分野で活動されている方々に実行委員として参画していただく一方で、職員は多種多様な意見等の実現に向けた調整役として、事業推進にあたっております。

私は、この事業を町民の皆様とともに協働で取り組む絶好の機会とし、「知恵と工夫を凝らした活力ある地域づくり」の起爆剤にしたいと考えております。記念事業成功へ向け、委員各位はもとより、町民の皆様方の地域をあげて

平成20年度予算編成につき

福社面につきましては、平成20年4月からは後期高齢者医療制度がスタートすることから、事務に遺漏のないよう準備を進めているところでございます。昨年4月に設置さ

住民の皆様と 手を携えたまちづくり



御宿町議会議長
新井 明

まだまだ至らない
ところが多々ござ
います。新年を迎
え、決意も新たに
地方自治の振興と
発展に向け、さら
に精進して参りた
いと存じますので、
どうぞよろしくお

大変厳しくなっ
てきております。
そのような中で、
景気の動向は依然
として目に見える
ほどの上昇の兆し
は地方には無く、
原油の高騰により
物価上昇だけが目
を引くような感
がございませう。

お願い申し上げます。
さて、昨年を振り返ります
と4月から施行されました
「地方分権改革推進法」によ
り、国及び地方公共団体が分
担すべき役割を明確にし、地
方公共団体の自主性と自立を
高め、自らの判断と責任にお
いて行政を運営することが出
来るように見直しが進められ、
新たな地方分権改革の流れが
示されました。国からすれば、
地方の自立と責任の確立とい
うことになるのでしようが、
小さな地方自治体においては、
地方公共団体への風当たりが

国政の面においても、安倍
内閣の総辞職によりまして福
田内閣が誕生したところであ
りますが、参議院選挙後のね
じれ国会においては、様々な
法案や懸案事項が流動的なま
まになされておられ、国の動向
が気になるところであります。
現在の地方の行財政制度は変
革期を迎えています。国の成長
は地方に活力があつてこそで
あり、地域の活力の創出は、
地方公共団体の取り組みに大
きくかかっています。

このような状況にあつて、
地方の自治運営を今後どのよ
うな方向付けをしていくかが、
大きな課題とされるわけであ
ります。

今後の町の活性化につきま
しても、住民主体の町づくり
に向け、皆様のご意見を踏ま
え、住民とともに行政と議会
が一体となつて、前進してい
けるよう日々活動してまいり
ます。

どうか皆様方の温かいご支
援、ご鞭撻を心からお願ひ申
し上げ、併せて皆様方の益々
のご健勝ご多幸をお祈りし、
新春のご挨拶といたします。

新年あけましておめでとう
ございます。
輝かしい新春を皆様とともに
に迎えられ、御宿町議会を代
表して心よりお慶び申し上げます。
皆様方には、日ごろより町
政運営並びに議会運営に対す
る温かいご理解と絶大なご
協力を賜り、深く感謝いたし
ます。
昨年的一般選挙後、伝統あ
る御宿町議会の議長として、
大役を仰せつかったわけでござ
います。就任してから約
3ヶ月が過ぎようとしており、

元気なまちづくりは、住民と
の協働により、知恵を凝らし
た地域づくりが求められると
ころです。地方の創意工夫に
よる、行財政運営の様々な成
果指標や主体的な取り組みに
よる地域の力が重要とされて
まいります。

町議会においては、議員定
数を昨年から12名に削減した
中においても、地方自治の
考え方を鋭意検討し、大地に
しっかりと根をはって将来を
見据えた議会活動に邁進する
所存でおります。また、住民
が理解しやすい議会制度の見
直しも検討しているところで
もございませう。

本町の現下に置かれてい
る状況は、厳しい財源状況と直
面する施策課題等、楽観の許
されない現状にあります。し
かしながら、私はただそれを
じっと耐え忍ぶだけの町政で
あつてはならないと思つてお
ります。自らに課せられた責
務の重さを感じつつも、行政
に携わるものとして、地方自
治の大きな変革期にめぐりあ
わせたこと、また厳しい時代
だからこそ、そこに可能性が
見出され、いろいろなものに
挑戦ができることをむしろ幸
福と考え、全力を尽くし取り
組んでまいります。

町民の皆様方におかれまし
ても、町政に対するさらなる
ご支援とご協力を賜りますよ
うお願い申し上げます。と
もに、この1年が皆様方にとり
まして、希望に満ちた幸多い
年となりますようご祈念いた
しまして、年頭のあいさつと
いたします。

のご支援を賜りますようお願い
いたします。

安全・安心な学校づくり施策に重点

御宿小学校校舎及び体育館の耐震補強工事・老朽改修工事が始まります



御宿小学校の校舎は、昭和42年、体育館は、昭和45年に建設した、ともに鉄筋コンクリート造りの建物です。

平成18年度に耐震診断を実施した結果、校舎では、建物全体としての耐震性能が低く、体育館でも、同様に耐震性が低いと判断されました。さらに、両建物ともに屋根・外壁等の老朽化が進んでいることの報告を受けました。

学校施設は、子どもたちの学習・生活の場であると同時に、災害時における避難場所としての役割があります。このことから、建物の安全性の確保が重要であると判断し、平成19・20年度の2カ年にわたり、耐震補強工事と老朽改修工事を実施します。

校舎については、耐震性を確保するため、校庭側の窓に15箇所の鉄骨ブレース材（斜めに取り付ける鉄骨造の斜材）を設置する工事、また体育館は、現在の屋根材同士や本体とを相互に金物で結合させ、一体化の強化を図る工事を行います。同時に、老朽化に伴う工事として、屋上の防水シート補修、外壁の改修及

校舎屋上では老朽化の進む防水シートの補修を行います



び塗装、内装材損傷部の改修を行います。

この工事により、校舎及び体育館は、文部科学省が学校施設に要求している『構造耐震指標数値（0.7以上）』を上回り、地震に強い建物となります。

工事は今月から施工予定で、早期の完成を目指します。なお、この工事は、休み期間中だけでなく、授業時間にも平行して行うことから、授業に支障をきたすことのないよう、工事音の影響や体育館の使用状況について、学校関係者をはじめ、設計管理業者及び施工業者と十分協議・調整し、子どもたちの安全に配慮しながら、学習環境の確保を第一に考えて実施していきます。皆様のご協力をお願いします。



▲体育館は、屋根材と本体を結合させることで耐震補強を図ります



▲校舎は校庭側窓15箇所に鉄骨造の斜材を設置し、耐震補強を図ります

発行：御宿町発行責任者：井上 七郎／編集：企画財政課／電話：0470-68-2511(代)

住所：〒299-5192 千葉県夷隅郡御宿町須賀1522／ホームページ：<http://www.town.onjuku.chiba.jp/>